

事業概要

(平成27年度のまとめ)

目 次

I	概要	
1	京都府立図書館の概要	1
2	平成27年度の主な動き	1
3	平成27年度の利用状況等	3
II	図書館資料	
1	総資料・年間収集資料	4
	(1) 総資料数	
	(2) 年間収集資料数	
2	図書	4
	(1) 資料数	
	(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数	
	(3) 視聴覚資料・障害者用資料数	
3	逐次刊行物	5
III	利用状況	
1	開館日	6
2	入館者	6
3	新規利用登録者	6
4	個人貸出	6
	(1) 貸出者数	
	(2) 貸出図書数	
	(3) 借受提供数	
5	図書館等への貸出	7
	(1) 相互貸借	
	(2) 一括貸出（貸出文庫）	
6	学校への貸出	8
7	調査相談	8
8	障害のある方へのサービス	9
	(1) 対面朗読サービス	
	(2) 点字・音声資料貸出	
9	マルチメディア利用	9
10	複写利用	9
11	ホームページアクセス	9

IV 事業

1	市町村連携・市町村支援	10
	(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク	
	(2) 連絡協力車	
	(3) 図書館・読書施設等職員研修	
	(4) 京都府図書館等連絡協議会	
	(5) その他	
2	学校支援・大学連携	12
	(1) 学校支援	
	(2) 大学連携	
3	調査研究・課題解決支援及び情報発信	13
	(1) 活用講座・館内見学会	
	(2) 講演会等	
	(3) 資料展示	
	(4) 地域連携	
	(5) 広報	

V 施設等

1	施設及び設備等	16
2	組織	17
3	経費	17

VI 沿革

1	年表	18
2	歴代館長	21

資	料	22
	・ 京都府立図書館基本方針	
	・ 京都府立図書館資料収集方針	
	・ 京都府立図書館サービス計画（平成28年度～平成32年度）の概要（広報用資料）	

I 概 要

1 京都府立図書館の概要

京都府立図書館は、日本で最初の公立の図書館である「集書院」を源流とし、明治31年に京都御苑内に設立され明治42年に現在の岡崎の地に移転して以来、百年を超える長い歴史と伝統を刻んでいる。

平成7年の阪神・淡路大震災により建物が大きく損傷したため、ルネサンス風の外壁正面部を残して建替工事を進め、平成13年に地上4階地下2階建の新館を開館した。この間に、府の社会教育委員会議から市町村立図書館との役割分担を打ち出した「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について」の提言を受け、明治の雰囲気を残した現在の建物で、特に市町村支援と調査研究支援を中心とする取組を進めてきた。

平成27年度には、新たな「京都府立図書館基本方針」及び平成28年度から5年間の「京都府立図書館サービス計画」を策定し、変化の激しい社会において新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指している。

2 平成27年度の主な動き

府立図書館は、平成26年度の「府民利用施設のあり方検証」において、「見直すべき施設」と区分され、市町村支援や来館者に対する直接サービスのあり方等について再検討する必要があるとされた。

この検証結果を受け、平成27年6月に外部有識者で組織する「府立図書館サービスの充実に向けた検討会議」を設置し、4回の会議を開催するとともに、来館者だけではなく広く府民を対象とするアンケートを郵送方式とWeb方式で実施した。

こうして得られた意見を踏まえて、従前からの市町村支援機能と調査研究支援機能を大事にしながらも新たな要素を加え、平成28年3月に「京都府立図書館基本方針」及び「京都府立図書館サービス計画（平成28年度～平成32年度）」を策定した。

サービス計画は3つの基本方針／20の項目／64の具体策からなり、常に斬新なサービスに挑戦することにより、「図書館」の新たな可能性を切り拓くことを目標に掲げている。

【基本方針及びサービス計画の概要は、巻末資料ページに掲載】

図書館サービスに関しては、学校支援の一環として実施している「学校支援セット貸出」（調べ学習や朝読書等に役立つ図書をテーマごとに数十冊のセットにして府内の学校に貸し出す制度）の貸出冊数が引き続き増加した。

（平成27年度：16,070冊←26年度：14,557冊←25年度：9,660冊←24年度：5,993冊）

これは、平成27年4月から全ての府立高校への連絡協力車の巡回を始めたことなど、セット内容の充実と利便性の向上をとともに図ってきたことによるものと考えられる。

また、平成27年4月には、「サピエ／視覚障害者情報総合ネットワーク」（日本点字図書館が管理し、デージーデータなどの情報を提供するネットワーク）のサービスも開始した。

平成27年度は5年に一度の図書館システムの更新時期にもあたっており、システム開発の受託業者をプロポーザル方式により外部有識者の意見も聴きながら選定し、市町村立図書館や利用者のニーズに幅広く応えられるシステム開発を進めたことにより、次のような大幅な改善を図ることができた。

①資料検索スピードの飛躍的な向上

- ・所蔵資料の検索スピードが改善し、特に、府内の市町村立図書館等52館の蔵書を一括で調べることができる横断検索システムについては、同種のサービスの中で全国最速となった。
- ・ユーザーインターフェースを工夫し、スムーズな画面展開を可能とした。

②データベースなどの利用者端末等のより一層の充実

- ・「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」の閲覧端末を1台から3台に増設したほか、新聞デジタル版や「ジャパンナレッジ」、「医中誌web」等を新たに導入し、合計で12種類のデータベースの利用が可能となった。
- ・申込なし・図書館カードなしでインターネットの閲覧ができる端末を新規に設置し、観光地「岡崎」に立地する当館で、観光客などが気軽にタイムリーに情報を入手できる環境を整備した。
- ・無料Wi-Fi利用席を新規に設置し、当館の資料と持込みのパソコン等を同時に使って調査・研究ができる環境を整備した。

③多様な環境に対応し情報表示にも配慮した便利なホームページへの刷新

- ・スマートフォンからもアクセスしやすいホームページ構成（レスポンシブwebデザイン）となるよう工夫した。
- ・資料の検索においては、全国の図書館の所蔵の情報をつなぐ「国立国会図書館サーチ」などの外部サービスとも連携させ、多様なルートで資料を入手できる環境を整備した。
- ・所蔵資料毎の固定URLを公開して、利用者間での情報共有を容易にした。

④斬新な図書館サービスを展開する「カーリル社」と連携協定を締結

- ・全国の公立図書館で初めて、図書館検索をより軽快に高速に変えた株式会社カーリルと「連携・協力に関する協定」を締結した。今後は、カーリル社とともに新しいサービスの開発を行い、その成果を広く公開することで、全国の図書館サービス向上に寄与することを目指すこととしている。

その他、当館の存在や取組をより多くの府民に知っていただけるよう、新たな企画や他機関との連携事業に取り組み広報に努めた結果、新聞のほか、テレビ・ラジオ番組、書籍やWebに

数多く取り上げられた。

なお、連携事業の中では、「ナレッジ×D I Y『シラベル』(地域力向上に向けたN P O等向けワークショップ)」、「京都まちあるきオープンデータソンWikipediaTown」・「WikipediaAR TS京都」(ウィキペディアの地域記事の編集)や「京都大学サマーデザインスクール(フィールドワークを中心とした公募型ワークショップ)」などの企画にも積極的に協力した。

人々が集い、図書館の資料を使って議論や学びを深化させるこうした取組を積み重ねることにより、サービス計画の目玉のひとつとして掲げた府立図書館における「知的な交流の場の創設」に向けて、ニーズを集めノウハウを取得することとしている。

3 平成27年度の利用状況等

区 分	平成27年度	平成26年度
開 館 日 数	286 日	286 日
総 資 料 数	1,231,258 冊	1,208,600 冊
入 館 者 数	287,026 人 (1日平均1,003 人)	— 人 (機器故障)
新 規 利 用 登 録 者 数	5,193 人	5,019 人
個 人 貸 出 冊 数	202,015 冊	208,572 冊
マ ル チ メ デ ィ ア 利 用 者 数	33,440 人	32,520 人
調 査 相 談 件 数	15,527 件	17,063 件
複 写 利 用 件 数	240,874 枚	248,846 枚
ホ ー ム ペ ー ジ ア ク セ ス 件 数	625,372 件	540,424 件
図 書 館 等 へ の 貸 出 冊 数		
・ 府 内 市 町 村 立 図 書 館 等 (うち相互貸借)	52,374 冊 (21,616 冊)	52,536 冊 (21,001 冊)
(うち貸出文庫)	(30,758 冊)	(31,535 冊)
・ 他 府 県 公 立 図 書 館 ・ 大 学 等	636 冊	707 冊
・ 学 校 図 書 室	19,697 冊	17,004 冊
(うち学校支援セット貸出)	(16,070 冊)	(14,557 冊)

Ⅱ 図書館資料

1 総資料・年間収集資料

(1) 総資料数	1,231,258 冊
	うち図書 941,913 冊
	うち逐次刊行物（図書換算） 289,345 冊
(2) 年間収集資料数	図書（視聴覚資料を含む。） 21,024 冊
	逐次刊行物（購入分のみ） 398 タイトル

2 図書

(1) 資料数 (単位：冊)

区分	27年度受入冊数				27年度末資料数			
	購入	寄贈	その他		児童書	京都資料	外国語資料	
閲覧・貸出用	12,401	10,738	1,480	183	826,307	47,077	23,778	19,322
図書資料	11,958	10,387	1,424	147	802,134	47,077	23,778	19,322
視聴覚資料	443	351	56	36	24,173	0	0	0
貸出文庫等	8,623	8,602	21	0	115,606	77,442	0	5
合計	21,024	19,340	1,501	183	941,913	124,519	23,778	19,327

(注)外国語資料には、児童書及び京都資料の外国語資料を含む。

(2) 館内閲覧・個人貸出用図書の分類別数 (単位：冊・%)

分類	27年度末冊数	(百分比)
0 総記	40,451	(4.9)
1 哲学	41,137	(5.0)
2 歴史	87,776	(10.6)
3 社会科学	175,219	(21.2)
4 自然科学	51,633	(6.3)
5 技術	59,020	(7.2)
6 産業	43,242	(5.2)
7 芸術	58,080	(7.0)
8 言語	15,031	(1.8)
9 文学	159,394	(19.3)
小計	730,983	(88.5)
教科書	23,796	(2.9)
児童書	47,077	(5.7)
その他	24,451	(2.9)
合計	826,307	(100.0)

(3) 視聴覚資料・障害者用資料数

視聴覚資料

(単位：タイトル・点)

区 分	27年度末タイトル数 (点 数)
C D	706 (847)
C D - R O M	1,474 (1,597)
D V D	2,238 (2,240)
D V D - R O M	373 (373)
ビ デ オ テ ー プ	3,172 (3,183)
カ セ ッ ト テ ー プ	887 (2,710)
マ イ ク ロ フ ィ ル ム	125 (8,298)
マ イ ク ロ フ ィ ッ シ ュ	402 (3,730)
デ イ ジ ー	1,195 (1,195)
合 計	10,572 (24,173)

障害者用資料

(単位：タイトル・点)

区 分	27年度末タイトル数 (点数)	
大 活 字 本	3,441 (3,441)	
点 字 図 書	19 (278)	大規模整理による
カ セ ッ ト テ ー プ	887 (2,710)	上の表の「カセットテープ」の再掲
デ イ ジ ー	1,195 (1,195)	上の表の「デイジー」の再掲
合 計	5,542 (7,624)	

3 逐次刊行物

(単位：タイトル)

区 分	27年度購入数	既存受入数
新 聞	18	110
雑 誌	380	10,602
合 計	398	10,712

Ⅲ 利 用 状 況

1 開 館 日 286 日

2 入 館 者 287,026人

3 新規利用登録者 5,193 人 有効登録者累計 111,097 人

京都市内	81.0 %
その他府内	8.9 %
他府県	10.1 %

4 個人貸出 (利用者登録を行っている個人への貸出)

(1) 貸出者数 延べ 91,720 人 (1日平均 321 人)

(2) 貸出図書数 202,015 冊 (1日平均 706 冊)

(3) 借受提供数 (他の図書館等から資料を借り受けて利用者に提供したもの)

(単位：冊)

借 受 先		借受冊数
府内	市町村立図書館等 (ア)	1,389
府外	国立国会図書館 (イ)	114
	他府県立図書館 (ウ)	816
	他府県市町村立図書館 (エ)	262
	他府県大学図書館等 (オ)	20
	府外小計	1,212
合 計		2,601

(ア) 市町村立図書館等の主な内訳

- 京 都 市：京都市中央図書館(37)、京都市右京中央図書館(21)、京都市伏見中央図書館(7)、京都市醍醐中央図書館(19)
- 乙訓地域：向日市立図書館(41)、長岡京市立図書館(66)、大山崎町立中央公民館図書室(20)
- 山城地域：宇治市中央図書館(97)、城陽市立図書館(77)、久御山町立図書館(27)、八幡市立八幡市民図書館(121)、京田辺市立中央図書館(51)、井手町図書館(44)、宇治田原町立図書館(22)、木津川市立山城図書館(47)、精華町立図書館(69)
- 南丹地域：亀岡市立図書館(72)、南丹市立中央図書館(59)、京丹波町中央公民館図書室(5)
- 中丹地域：綾部市図書館(63)、福知山市立図書館中央館(99)、舞鶴市立西図書館(40)、舞鶴市立東図書館(11)
- 丹後地域：宮津市立図書館(45)、与謝野町立図書館(11)、与謝野町立図書館野田川分室(6)、京丹後市立あみの図書館(21)、京丹後市立図書館弥栄図書室(6)、京丹後

市立図書館久美浜図書室(4)
 ○大 学：京都学園大学図書館(95)

(イ) 国立国会図書館の内訳
 東京本館(83)、関西館(22)、国際子ども図書館(9)

(ウ) 他府県立図書館の主な内訳
 埼玉県(21)、富山県(11)、石川県(27)、静岡県(13)、愛知県(27)、滋賀県(170)、
 大阪府(109)、兵庫県(78)、奈良県(47)、和歌山県(36)、岡山県(26)、徳島県(29)、
 愛媛県(18)、高知県(20)

(エ) 他府県市町村立図書館の主な内訳
 長浜市(4)、大阪市(84)、堺市(17)、茨木市(61)、吹田市(6)、摂津市(5)、枚方市(14)

(オ) 他府県大学図書館等の主な内訳
 大阪市立大学学術情報総合センター(3)、明治大学和泉図書館(2)

5 図書館等への貸出

(1) 相互貸借 (単位：冊)

貸 出 先	貸出冊数	摘 要
府内市町村立図書館等	21,616	26市町村他(※)
他府県公立図書館・大学等	636	
合 計	22,252	うち取寄せ申込みeサービスによる貸出2,639

(※) 市町村立図書館等の内訳 (単位：冊・%)

地 域 区 分	貸出冊数 (百分比)
京 都 市	2,570 (11.9)
乙 訓 地 域	2,335 (10.8)
山 城 地 域	6,328 (29.3)
南 丹 地 域	3,404 (15.7)
中 丹 地 域	3,602 (16.7)
丹 後 地 域	3,268 (15.1)
府立総合資料館	10 (0.0)
そ の 他	99 (0.5)
合 計	21,616 (100.0)

(注) 市町村立図書館等を経由し小中学校へ貸し出した学校支援セット等は含まない。

(2) 一括貸出 (貸出文庫)

(単位：冊)

区 分	貸出冊数	摘 要
貸 出 文 庫	30,758	8市町(組合)教育委員会、1府立学校

貸出内訳

(単位：冊)

貸 出 先	冊 数	貸 出 先	冊 数	貸 出 先	冊 数
大 山 崎 町	2,272	綾 部 市	1,100	伊 根 町	4,433
相楽東部広域連合	2,342	福 知 山 市	1,592	京 丹 後 市	2,322
南 丹 市	3,478	宮 津 市	12,999	府 立 豊 学 校	220

6 学校への貸出

(単位：冊)

区 分	貸出冊数	
学校支援セット貸出	高等学校版	8,380
	府立高等学校への貸出	6,730
	府立特別支援学校への貸出	1,430
	総合教育センターへの貸出	220
	小中学校版	7,690
	市町(組合)立小中学校への貸出	5,030
	府立高等学校への貸出	1,870
	総合教育センターへの貸出	790
小 計	16,070	
機 関 貸 出	府立高等学校への貸出	3,627
合 計	19,697	

7 調査相談

(単位：件)

区 分	件 数
調 査 相 談	15,234
マルチメディア相談	218
市町村からの調査相談	75
合 計	15,527

8 障害のある方へのサービス

(1) 対面朗読サービス

(単位：人・時間)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
利用者数	9	11	6	11	10	9	10	9	11	10	8	9	113
利用時間	18	22	12	22	20	18	20	18	22	20	16	18	226

(2) 点字・音声資料貸出

(単位：点)

資料区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
テープ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
C D	22	26	31	10	30	40	10	0	10	15	10	11	215
デイジー	26	30	31	38	35	26	36	45	57	17	18	28	387
合 計	48	56	64	48	65	66	46	45	67	32	28	39	604

9 マルチメディア利用

(単位：人)

利 用 区 分	利用者数(1日平均)
インターネット閲覧端末	24,514 (86)
C D - R O M 閲覧端末	125 (0)
A V プ ー ス	5,399 (19)
外部データベース閲覧端末	2,101 (7)
マイクロフィルム閲覧端末	713 (2)
国立国会図書館デジタル化資料閲覧端末	588 (2)
合 計	33,440

10 複写利用

(単位：枚)

区 分	利用枚数	摘 要
図 書 資 料	219,217	白黒213,865、カラー5,352
CD-ROM、外部データベース	8,726	
マイクロフィルム	5,607	
国立国会図書館デジタル化資料	7,324	
合 計	240,874	

11 ホームページアクセス 625,372 件

IV 事 業

1 市町村連携・市町村支援

(1) 京都府図書館総合目録ネットワーク

当館と府内の市町村立図書館等の蔵書を一括で検索できる「京都府図書館総合目録ネットワーク」を構築することにより、府民の資料検索の利便性の向上を図るとともに、図書館業務システムに連動させて、図書館間の相互貸借や情報交換、レファレンス等の市町村支援業務に活用している。

27年度末現在で府内全26市町村の図書館・読書施設及び1大学図書館が参加しており、参加館の区分は以下のとおりである。

○データ提供館：自館の所蔵データをネットワークに提供する館

- ・分散型（横断検索館）【表中A】：横断検索により、リアルタイムでデータを提供
- ・集中型（データ提供館）【表中B】：定期的にデータを送信し、データベースに蓄積

○検索館【表中C】：自館の所蔵データの提供は行わず、図書館支援機能のみを使用する館

京都府図書館総合目録ネットワーク参加館一覧

(単位：館(室))

図書館・読書施設名	A	B	C	図書館・読書施設名	A	B	C
府立図書館	○			笠置町中央公民館図書室			○
府立総合資料館	○			和束町体験交流センター図書室			○
京都市図書館(20館)	○			南山城村図書室			○
向日市立図書館	○			亀岡市立図書館	○		
長岡京市立図書館	○			南丹市立図書館	○		
大山崎町立中央公民館図書室		○		京丹波町公民館図書室等(3館)		1	2
宇治市中央図書館	○			綾部市図書館	○		
城陽市立図書館	○			福知山市立図書館	○		
久御山町立図書館	○			舞鶴市立図書館(2館)		○	
八幡市立八幡市民図書館	○			宮津市立図書館		○	
京田辺市立中央図書館	○			与謝野町立図書館(3館)	○		
井手町図書館	○			伊根町立公民館図書室			○
宇治田原町立図書館		○		京丹後市立図書館(6館)	○		
木津川市立図書館	○			京都ライトハウス情報ステーション			○
精華町立図書館	○			京都学園大学図書館		○	
				小 計	45	7	/
				合 計	52	7	

(2) 連絡協力車

府内の各市町村立図書館等との相互貸借や情報交換、府立学校への図書の搬送等のため、図書館等41館、全ての府立高等学校及び一部の府立特別支援学校へ、下表の5コースにより毎週1回（一部施設は2～3箇月に1回）、連絡協力車を運行した。

府立高等学校については、公共図書館から距離がある学校を中心に巡回していたが、学校支援セットの利用希望が増加したことなどから、25年度には直送による図書の搬送も取り入れ、27年4月からは全校を巡回することとした。

搬送実績

(単位：冊)

区 分	搬送冊数	摘 要	
市 町 村 等	府立図書館 ⇒ 市町村立図書館等	21,616	
	市町村立図書館等 ⇒ 府立図書館	1,389	
	市町村立図書館等 ⇔ 市町村立図書館等	30,061	
府 立 学 校	府立図書館 ⇒ 府立学校	3,627	機関貸出
学 校 支 援 セ ッ ト		16,070	
小 計		72,763	
寄 贈 図 書 等		429	
合 計		73,192	

搬送コース

コース	順 路
A	京都学園大学図書館→亀岡高校→亀岡市立図書館→南丹高校(→南丹市八木図書室)→農芸高校→南丹市立中央図書館→園部高校→京丹波町中央公民館図書室→須知高校(→南丹市日吉図書室→京丹波町和知ふれあいセンター図書室→南丹市美山図書室)→北桑田高校→聾学校→盲学校→京都ライトハウス情報ステーション→清明高校→府立総合資料館→北稜高校→洛北高校
B	洛水高校→八幡市立八幡市民図書館→京都八幡高校→京都八幡高校(南)→京田辺市立中央図書館→田辺高校→精華町立図書館→国立国会図書館関西館→南陽高校→木津川市立中央図書館→木津高校→和東町体験交流センター図書室→南山城村図書室→笠置町中央公民館図書室→城南菱創高校→京都すばる高校→桃山高校
C	洛東高校→東稜高校→東宇治高校→菟道高校→宇治市中央図書館→宇治田原町立図書館→井手町図書館→城陽高校→城陽市立図書館→西城陽高校→久御山高校→久御山町立図書館→大山崎町立中央公民館図書室→西乙訓高校→乙訓高校→長岡京市立図書館→向陽高校→向日市立図書館→鳥羽高校→京都市中央図書館→朱雀高校
D	綾部高校東分校→綾部市図書館→綾部高校→西舞鶴高校→舞鶴市立西図書館→東舞鶴高校→大江高校→福知山市立図書館中央館→福知山高校→工業高校
E	1日目：宮津高校→海洋高校→宮津市立図書館→与謝野町立図書館(→与謝野町立図書館加悦分室)→加悦谷高校(→与謝野町立図書館野田川分室)→伊根町コミュニティセンターほっと館図書情報室(→京丹後市立図書館丹後図書室→京丹後市立図書館弥栄図書室)→峰山高校弥栄分校(→京丹後市立図書館大宮図書室→京丹後市立図書館久美浜図書室)→久美浜高校→峰山高校→京丹後市立峰山図書館 2日目：網野高校(→京丹後市立あみの図書館)→洛西高校→桂高校→北嵯峨高校→嵯峨野高校→山城高校→鴨沂高校

(3) 図書館・読書施設等職員研修

市町村立図書館等が行う図書館サービスの充実に向けた取組を支援するため、職員を対象とする研修を毎年度実施している。

27年度は、経験年数に応じたステップ別研修として、図書館間の相互協力に関する初任者研修を5月に、レファレンス研修（初級）を6月に、レファレンス研修（中級）を10月に実施するとともに、府内各地域への出前研修として、図書館の行事に関する事例交流会を7月に2会場で、京都府図書館総合目録ネットワークの新システムに関する研修を2月に2会場で3回実施し、合計で延べ185人の参加があった。

(4) 京都府図書館等連絡協議会

「京都府図書館等連絡協議会」（略称：京 函 連 協^{きょう と れん きやう}）は、本府における図書館事業等の振興及び相互の協力を図ることを目的とする組織であり、全26市町村の図書館・公民館図書室をはじめとする府内の49施設で構成され、当館に事務局を置いている。

京函連協は、研修研究事業・相互協力事業・広報事業など、府内一円での図書館サービスの向上に向けた取組を毎年度実施しているほか、「京都図書館大会」の実行委員会に参画したり、京都府教育委員会と共催で「子ども読書本のしおりコンテスト」を開催したりするなど、他機関との連携にも努めている。

(5) その他

25年度から、「図書館で、京都のええトコ再発見！」と題して、市町村立図書館等の特色や取組を紹介するパネル展示をエントランスホールで行っている。

各自自治体の観光部局等の協力も得て観光パンフレット類を併せて提供することにより府内の各地域の魅力を発信する取組で、27年度は第5弾「福知山市・綾部市篇」を実施した。

2 学校支援・大学連携

(1) 学校支援

「学校支援セット貸出」は、調べ学習や朝読書に役立つ図書を当館において整備し、環境や文化、防災等のジャンル・テーマごとに数十冊のセットにして府内の小・中学校及び府立学校に貸し出す制度で、20年度に取組を開始した。当館では、学校のニーズを的確に把握してこの制度の充実を図るとともに、来館型調べ学習や図書館見学の受入も積極的に行うことにより、学校支援及び子どもの読書活動の支援に努めている。

学校支援セット貸出については、セット内容の充実と利便性の向上を図ったこと、特に27年度は全ての府立高等学校への連絡協力車の巡回を開始したことなどにより、利用実績は16,070冊（3年前の2.7倍）にまで増加した。なお、年度末における貸出セットの整備状況は、小・中学校版が75種類、高等学校版が143種類となっている。

来館型調べ学習では、学校図書館の数十倍の規模の所蔵資料を使った調べ学習が可能なほか、図書館の利用方法や資料の探し方も学ぶことができ、府立京都すばる高校をはじめとして、小学校から大学・専門学校まで、延べ17校561人が来館された。

(2) 大学連携

京都市立芸術大学との連携事業は4年目を迎え、27年度も引き続き、小説に出てくる人物や空想上の生き物をテーマに学生が制作した立体作品をエントランスホールで展示することにより、普段とは違う視点での読書の楽しみ方を提起した。

京都教育大学の学生が当館の所蔵する教科書コレクションを使って研究した成果を展示する取組も引き続き実施した。小学校の国語の教科書に掲載されている「大造じいさんと雁」について、教科書の発行年代ごとの表記や挿絵、注釈等の違いがまとめられており、当該教科書とともに展示して各世代の来館者の興味を引いた。

京都大学の学生や卒業生を中心とするサークル「井戸端サイエンス工房」との共催により、「本を楽しむ、科学と遊ぶワークショップ第6弾『のこす』と『のこる』」を開催した。理系と文系の2名の研究者の話を聞いた後、グループワークでテーマのイメージを膨らませ、各自が図書館内を散策してテーマにつながる本を探し、見つけた本についてさらに参加者同士で語り合うこのイベントは、「1人では出会えなかった本との出会い」を提供するものとして好評を得ている。

また、京都大学が主催する「アカデミック・デイ」との連動企画として、京都大学の研究者が「今の仕事を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」など様々な視点でお勧めの本を紹介する特設コーナー「研究者の本棚」を閲覧室内に設置した。

3 調査研究・課題解決支援及び情報発信

(1) 活用講座・館内見学会

当館では、府民の調査研究に役立つ資料・情報の提供に努め、レファレンスサービス（相談業務）にも力を入れているが、利用者自らが当館の様々なツールを用いて資料・情報にたどり着くことができるよう、「図書館活用講座」を通年で実施している。

27年度は、実際に新聞データベースを操作しながら学べることから人気の高い「新聞記事の探し方」をテーマとする回を3回実施したほか、図書館を府民の暮らしに根付く情報拠点としてさらに利用していただくため、「消費者トラブルから暮らしを守る～図書館で情報をキャッチ」と題して府消費生活安全センターと連携した講座を実施するなど、8回の講座に67人が参加された。

毎月第3水曜日の午後2時から定期的に行っている「館内見学会」では、「関西近代建築の父」と呼ばれ京都市役所や同志社大学も手がけた武田五一により設計された旧館の外壁や外階段を保存修理して新館への建替を進めたこと、都道府県立図書館では当館が初めて導入した自動化書庫と地下2階4層からなる電動積層集密書庫に開架資料の10倍以上の膨大な資料を収めていること、書庫の資料の中には教科書や映画のシナリオなどのコレクションも含まれていること、来館者向けサービスの他に市町村立図書館支援や学校支援を行っていることなどを案内している。

27年度は、岡崎地域の各施設のイベント等を紹介する『春の岡崎手帖』・『秋の岡崎手帖』（京都岡崎魅力づくり推進協議会作成）で広報を行ったこともあり、1回当たりの参加者数は昨年度の1.6倍に増加し、11回の見学会に149人が参加された。

(2) 講演会等

様々な機関と連携して幅広い分野の府民講演会を開催し、府民の生涯学習を支援するとともに、当館の所蔵資料や取組をより多くの府民に知っていただく契機としている。

27年度の開催実績は表のとおりである。

期日	事業名	演題	参加者数
9/13	本を楽しむ、科学と遊ぶワークショップ（井戸端サイエンス工房共催事業）	「のこす」と「のこる」	22人
11/6	古典の日・読書週間記念講演会（府立総合資料館連携事業）	能に生きる『源氏物語』の世界 ～禅竹の能作『野宮』に見る 六条御息所の苦悩～	85人
1/23	府立図書館・府立医科大学附属図書館連携府民講演会	生活習慣から見た糖尿病と認知症～いきいきとした脳を保つための食生活～	57人

(3) 資料展示

「思いがけない本との出会い」を演出するため、京都に関することや季節の話題、時事問題などをテーマとして、関連する当館の所蔵資料を一箇所に集めた展示を通年にわたり実施している。作成したブックリストは展示終了後も館内やホームページで提供し、レファレンス等にも活かしている。

また、講演会やイベントと連動させた資料展示も行い、講演会等が終了した後も所蔵資料を使って知識を深めていただけるように努めている。

27年度の展示実績は表のとおりである（年度をまたぐ展示を含む。）。

1 階 小 展 示	
読んで深める琳派 (3/27～6/24)	京の縁起物 (12/25～2/14)
京の風物詩祇園祭 (6/26～9/23)	京をつくる森 (3/25～6/24)
本のデザインとかたち (9/26～12/23)	
地下 1 階 特設 コーナー 展 示	
春は旅立ちの時 (3/7～4/22)	能 (10/23～12/23)
京都の電車、今昔 (4/24～6/24)	劇場への招待～ロムシアター京都開館を祝して (12/25～2/14)
戦後70年ベストセラーで振り返る (6/26～8/26)	印象派の巨匠クロード・モネ (3/1～5/25)
暗号の世界 (8/28～10/21)	
地下 1 階 ミニ コーナー 展 示	
はじめの一步 (4/1～5/1)	継がれる琳派広がる琳派 (10/9～11/23)
高野山開創1200年高野山と空海 (5/2～5/31)	祝! ノーベル賞受賞!! (10/9～10/31)
特集杉本秀太郎氏 (5/29～6/24)	ユネスコ記憶遺産『東寺百合文書』『舞鶴への生還』 (10/10～11/25)
環境月間～水を考える (6/2～6/30)	そば (11/4～12/1)
浴衣で夏をたのしむ (7/1～8/26)	特集女優原節子さん (11/28～1/27)
刀剣と日本史 (7/4～7/29)	日本の冬模様 (12/2～12/27)
特集鶴見俊輔氏 (7/24～8/26)	マイナンバーって何? (1/6～2/14)
花火 (7/29～8/26)	志村ふくみと染織 (2/2～3/21)
高校野球百年 (8/7～8/26)	図鑑 (3/1～3/31)
防災・救急の日 (8/28～9/29)	文化庁が京都に! (3/25～4/30)
京の名店あれこれ (10/1～10/31)	
2 階 ミニ コーナー 展 示	
光琳と若冲 (5/29～7/22)	追悼原節子さん (11/27～2/14)

(4) 地域連携

京都有数の観光地である岡崎に立地する当館は、「京都岡崎魅力づくり推進協議会」に加盟して近隣の文化施設等と連携した取組を展開するとともに、館内では、近接する京都国立近代美術館及び京都市美術館で開催された展覧会の図録を集めた特設コーナーや、周辺の観光情報を紹介するコーナーを設置している。

27年度も同協議会の主催する数々のイベントに参画・協力しており、新たな取組としては、岡崎地域の施設を巡るまちあるきイベントにおいて武田五一が設計した旧館の外壁や同氏の作とされる家具を紹介したこと、重要文化的景観内定を記念して作成されたパネル「京都岡崎の文化的景観」をエントランスで展示したこと、岡崎地域内を巡回するバス「岡崎ループ」の運行開始企画に協力して車内で配布されるちらしの持参者にブックカバーをプレゼントしたこと、「京都岡崎ハレ舞台～岡崎ときあかり」のプロジェクトマップコンペでは京都府立図書館賞を授与しその受賞作品をエントランスで放映したことなどが挙げられる。

(5) 広報

当館は明治の面影を残す「歴史ある図書館」として知られており、27年度は、日本国内の美しい図書館を集めた書籍に掲載されたほか、女性向け月刊誌、観光ガイドマップ、スポーツ紙、京都に本社を置く企業の社内報、関西の経済団体の機関誌、関西ローカルのテレビ番組など、数々の媒体に取り上げられた。

他方、新たな企画にも積極的に取り組んでおり、祇園祭の宵山の日には職員が浴衣で出迎え、利用者にも浴衣での来館を促すイベント「浴衣で図書館」は、ラジオの生放送で取り上げられるなど好評を博した。

様々な機関と連携した取組を行っていることは全国的にも注目を集めており、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが主催する社会教育主事講習において、全国の公共図書館を代表して事例発表を行う機会を得ている。

また、当館は100年以上前の洋書も数多く所有しているが、大森貝塚の発見で知られる明治期の学者エドワード・モースの著書3冊が府内在住の美術家により、28年3～6月に開催されたシドニー・ビエンナーレ（国際的美術展覧会）において、作品の構成要素として展示された。

V 施 設 等

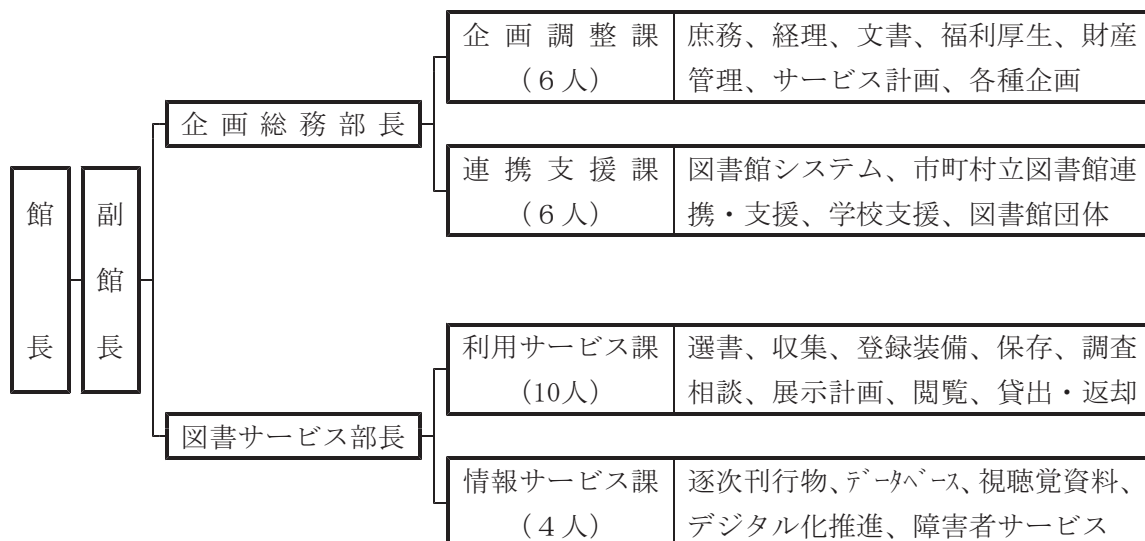
1 施設及び設備等

項 目	摘 要
所 在 地 等	〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地 TEL : 075-762-4655 FAX : 075-762-4653 ホームページ : http://www.library.pref.kyoto.jp/
開 館 日	平成13年5月11日 (建替による新館開館。府立図書館設置は明治31年)
構 造 等	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上4階地下2階建 敷地面積 3,740㎡ 延床面積 7,477㎡ 地下2階2,296㎡、地下1階2,049㎡、1階1,129㎡ 2階746㎡、3階700㎡、4階557㎡
建 築 費	617,415万円 (外構工事・設備・家具等を含む。)
収 蔵 規 模	約150万冊 (平成27年度末資料数 約120万冊) ・書架 (1,710㎡) 約10万冊 ・書庫 (1,776㎡) 電動積層集密書庫 約100万冊 自動化書庫 約40万冊
利用者用端末	当館蔵書検索用端末 (OPAC) 14台、他館蔵書検索用端末6台、データベース閲覧端末9台、新聞記事データベース閲覧端末5台、新聞デジタル版閲覧端末4台、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス閲覧端末3台、インターネット閲覧端末18台、インターネット等閲覧申込用端末2台、CD-ROM閲覧端末2台、障害者サービス用端末3台、マイクロフィルム閲覧端末3台、映像ブース8台、オーディオブース4台
開 館 時 間	火曜日～金曜日 : 午前9時30分～午後7時 土・日曜日、祝日 : 午前9時30分～午後5時
休 館 日	月曜日 (祝日及び振替休日は開館、翌日が休館) 毎月第4木曜日 (祝日は開館) 年末年始、特別整理期間

2 組織 <28年4月1日現在>

常勤職員 29人

非常勤職員 20人 (館長1人・再任用1人・嘱託17人・臨時職員1人)



3 経費

(単位：千円)

科目	事項	決算額	摘要
図書館費	人件費	277,646	
	資料費	56,541	図書50,418、逐次刊行物6,123
	事業費	179,656	
	小計	513,843	
事務局費	人件費	4,201	
	事業費	13	
	小計	4,214	
合計		518,057	

VI 沿革

1 年表

明治31年(1898) 4月	府立京都図書館御苑内創立	昭和26年(1951) 9月	本館大閲覧室屋根修理着工休館
" 6月	業務開始	" 10月	本館蔵書一部知恩院倉庫に別置
33年(1900)	夜間開館開始	" 11月	本館大閲覧室安全開架式化
36年(1903) 10月	巡回図書館(貸出文庫)制度開始(昭和25年3月廃止)	" 12月	本館新体制で開館
38年(1905) 4月	児童室開設(大正14年3月閉鎖)	27年(1952) 6月	本館読書相談係設置
39年(1906) 6月	館外貸与規則制定告示	" 7月	園部地方分館開館(園部町立図書館内、昭和41年11月閉館)
" 11月	新館起工式		北桑田地方分館開館(京北町下中、昭和54年8月(京北農業協同組合弓削支所内)仮移転、同55年3月閉館)
42年(1909) 2月	新館竣工		木津地方分館開館(旧役場内、昭和29年7月(木津小学校内)、同38年5月(町民センター内)移転、同50年3月閉館)
" 3月	京都府立京都図書館規則告示	28年(1953) 4月	本館月曜日休館を実施
" 4月	新館開館	29年(1954) 2月	伏見分館新築工事着工
大正 8年(1919) 1月	本館図書分類目録編纂に着手	" 9月	京都府立図書館「善本目録」作製
11年(1922) 4月	貸出文庫を増設	30年(1955) 9月	青年学級文庫実施
昭和 3年(1928) 3月	帯出規程告示	32年(1957) 6月	中京分館(河原町分館改称)開館(烏丸庁舎内、昭和40年1月(京一商同窓会館)仮移転、同40年11月(京都府中京庁舎内)移転、平成13年3月閉館)
" 4月	個人貸出実施	35年(1960) 10月	中京分館館外貸出実施
" 6月	和漢図書分類目録分類表12冊作製	38年(1963) 3月	本館読書相談係・学生自由閲覧室・貸出文庫閉鎖、蔵書の一部を府立総合資料館へ移管
8年(1933) 10月	京都府中央図書館に指定	" 11月	本館日曜・土曜午後・夜間休館
16年(1941) 5月	児童室復活開室(昭和23年4月元貴賓室に移転)	" 12月	児童室土・日曜休室
22年(1947) 8月	館外貸出廃止	39年(1964) 1月	本館外装改修工事
23年(1948) 9月	読書ルーム開設(河原町丸善京都店地下)	" 5月	本館夜間・土曜午後再開(9時まで)、貸出室設置
24年(1949) 4月	読書相談開始		児童室館外貸出実施、土曜日開室
" 6月	河原町分館開館(河原町丸善京都店地下、昭和31年9月閉館)		伏見分館館外貸出実施
25年(1950) 2月	伏見分館開館(伏見信用金庫2階、昭和29年7月移転、同63年3月閉館)	" 7月	市内分館日曜日休館
" 6月	宮津地方分館開館(宮津町役場内、昭和28年4月(宮津市図書館内)、同32年10月(労働センター内)、同39年5月(宮津市立図書館内)、同46年8月(新宮津市立図書館内)移転、平成9年3月閉館)	40年(1965) 7月	児童室に母親文庫設置
" 7月	綾部地方分館開館(綾部市立図書館内、昭和38年7月(市民センター内)移転、同41年9月閉館)	" 9月	京都府教育委員会基本規則一部改正
" 8月	学生自由閲覧室新設		教育庁係等設置規程一部改正により図書館に課制実施
" 11月	京都府立図書館設置条例公布(条例第62号)	41年(1966) 11月	自動車文庫命名式(蝸川知事「あゆみ号」と命名)
昭和26年(1951) 4月	上京分館開館(北区紫郊会館内、昭和31年5月(桜谷文庫内)移転、同51年5月閉館)		移動図書館事業開始(平成2年12月終了)
		42年(1967) 7月	本館修繕工事
		" 9月	貸出室移転再開

昭和44年(1969)12月	本館夜間閉館時間を7時に変更	平成 2年(1990) 3月	「点字・録音図書目録(点字版)」刊行
46年(1971) 8月	本館貸出室の図書を閲覧室に統合、第2閲覧室開室	〃 4月	連絡協力車事業本格実施
	貸出方式をブラウン方式に切替	〃 6月	機構改革により本館は4課組織に
48年(1973) 4月	上京分館館外貸出実施	3年(1991) 3月	本館模様替内装工事(受付カウンター・新聞雑誌室等配置換)
50年(1975) 3月	身体障害者用便所・スロープ新設	〃 6月	マイクロリーダープリンターのサービス開始
〃 5月	本館(閲覧室・中央カウンター・新聞雑誌室開設)内装工事	〃 8月	「連絡協力車だより」発刊
	本館閲覧室を完全開架式に切替	4年(1992) 9月	毎月第2土曜日 児童室 午前9時半から開室開始
51年(1976) 4月	本館閲覧用目録作成に着手	5年(1993) 3月	「京都府の公共図書館 1992年版」刊行
〃 6月	京都府図書館等連絡協議会発足、府立図書館に事務局を置く	6年(1994) 3月	「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会、京都府立総合資料館と共同刊行
〃 7月	児童室改修工事	7年(1995) 2月	阪神・淡路大震災(1月17日)による本館一部被害の補修・補強工事実施
53年(1978) 3月	本館改修工事(外装・屋根葺替・玄関・防災設備)	〃 5月	本館老朽化による安全対策のため館内模様替え(事務室の1階への移動等)実施。5月1日から2箇月間臨時休館(7月3日再開館)
	本館閲覧用目録整備完了	〃 8月	連絡協力車北部コースの運行を月2回に拡充(全市町村月2回運行)
54年(1979) 3月	本館書庫改修工事	〃 9月	一般図書室の天井一部損傷による補修工事実施。9月18日から臨時休館(10月16日再開館)
〃 4月	国会図書館からの図書貸出制度発足	〃 12月	京都府社会教育委員会議が京都府教育委員会教育長に「生涯学習社会を展望する京都府の図書館の在り方について(提言)」を提出
〃 11月	本館自習室閉鎖	8年(1996) 3月	平成8年度当初予算に府立図書館整備費を計上
56年(1981) 9月	「専門情報機関要覧」刊行	〃 9月	新府立図書館建設基本計画の概要を発表
57年(1982) 7月	移動図書館用電動集密書架設置	9年(1997) 3月	9月補正予算に基本設計費等を計上
〃 12月	伏見分館改修工事	〃 4月	平成9年度当初予算に実施設計費等を計上
58年(1983) 2月	生涯教育推進事業として読書推進講座実施	〃 9月	新館整備のため本館を休館
〃 3月	「京都府の公共図書館」刊行	〃 9月	本館仮施設(京都市下京区、旧中小企業総合指導所)へ移転完了
〃 6月	伏見分館ブックポスト設置	10年(1998) 3月	府立図書館解体工事及び壁面(東側前面)保存工事完了
〃 7月	図書館協力貸出本格実施	〃 7月	平成10年度当初予算に新館建設工事費等を計上
59年(1984)12月	新着図書案内発行		総合資料館蔵書との一体的データ化作業開始
60年(1985) 7月	連絡協力車試験的運行開始(2コース)		
61年(1986) 8月	国立国会図書館とのオンライン利用実験実施		
〃 12月	京都府教育委員会教育長から「生涯学習社会を展望する京都府の図書館のあり方」を京都府社会教育委員会議へ諮問		
62年(1987)10月	昭和61年度全国公共図書館参考事務研究集会開催		
63年(1988) 3月	国立国会図書館とオンライン実施		
〃 10月	「京都府の公共図書館1987年版」刊行		
	図書館資料広域貸出事業開始		
	「京都府公共図書館等所蔵雑誌・新聞総合目録」を京都府図書館等連絡協議会と共同刊行		

平成10年(1998) 9月	本館事務室の再移転(旧中小企業総合指導所から隣接の旧女子高等技術専門校へ)	平成20年(2008)	源氏物語千年紀記念事業(小展示・パネル展等)開催	
〃 11月	新府立図書館新築工事起工式	5月	インターネット貸出延長サービス開始	
11年(1999) 2月	平成10年度近畿地区公共図書館研修開催	〃 9月	学校支援セット貸出開始	
〃 3月	平成11年度当初予算に新築工事費等計上	21年(2009) 3月	所蔵音声資料の音声目録CD-ROM(デジタル版)作成、配布	
〃 6月	「日本目録規則1987年版改訂版」「日本十進分類法新訂9版」「日本著者記号表改訂版」採用	〃 6月	府立図書館「岡崎」100周年記念事業(小展示・パネル展等)開催(～22年3月)	
12年(2000) 3月	平成12年度当初予算に新築工事費等計上	〃 9月	府立図書館「岡崎」100周年記念パンフレット作成	
〃 5月	国立国会図書館総合目録ネットワーク参加	〃 11月	国立国会図書館関西館との連携(連絡協力車の運行)	
〃 10月	新館竣工	22年(2010) 4月	学校支援セット貸出小中用CD-ROM目録を作成、配付	
〃 11月	仮施設から新館に移転、開館準備作業本格化 「京都府図書館総合目録ネットワーク運営規程」施行(1日)	〃 9月	京都府立医科大学附属図書館と連携した府民講演会開催	
13年(2001) 2月	仮施設及び府立総合資料館からの図書資料移転終了	〃 10月	新着図書お知らせサービス開始	
〃 4月	京都府教育委員会基本規則を一部改正して図書館の職を整備し、教育庁地方機関等の課等設置規程を一部改正して2課制(総務課：2係、資料課：4担当)施行(1日)	23年(2011) 4月	祝日開館を実施	
〃 5月	京都府立図書館の管理運営に関する規則(平成13年京都府教育委員会規則第1号)施行(1日)	〃 8月	学校支援ポータルサイト開設	
〃 5月	京都府立図書館個人貸出規程等、各種規程施行(7日)	〃 12月	館内全面禁煙の実施	
〃 6月	開館式(10日)	〃 12月	京都大学研究者等と連携したサイエンスイベント開催	
〃 6月	京都府図書館総合目録ネットワークのインターネット発信開始(10日)	24年(2012) 4月	子ども読書本のしおりコンテスト実施	
〃 6月	一般開館(11日)	〃 8月	府立図書館サービス計画策定	
〃 6月	連絡協力車の毎週運行開始(16日)	〃 11月	図書館活用講座実施	
14年(2002) 4月	「子ども読書絵てがみコンテスト」実施	25年(2013) 3月	府立図書館のシンボルマークと和文ロゴタイプ作成	
15年(2003) 2月	館内完全分煙実施	〃 7月	24年度図書館評価(試行)を社会教育委員会議で報告	
18年(2006) 4月	インターネット貸出待ち登録サービス開始	〃 9月	学校支援セットの府立高校(非巡回校)への直送実施	
〃 5月	電話による貸出延長サービス開始	26年(2014) 9月	国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始	
〃 12月	京都府図書館総合目録ネットワークに府内全市町村が参加	〃 9月	府民利用施設のあり方検証において「見直すべき施設」に区分	
19年(2007) 3月	取寄せ申込みeサービス開始	27年(2015) 4月	連絡協力車の全府立高校への巡回開始	
4月	連絡協力車の一部の府立高校への巡回開始	サビエ/視覚障害者情報総合ネットワークのサービス開始	〃 6月	府立図書館サービスの充実に向けた検討会議設置
		28年(2016) 3月	図書館システム更新	
		〃 4月	府立図書館基本方針及び府立図書館サービス計画策定	
			京都府教育委員会基本規則を一部改正して図書館の職を整備し、教育庁地方機関等の課等設置規程を一部改正して部課制(企画総務部:2課、図書サービス部:2課)施行(1日)	

2 歴代館長

氏 名	在 職 期 間
三宅 五郎三郎	明治31年4月 ～ 明治33年3月
原田 千之助	明治33年3月 ～ 明治33年12月
中道 貫一 (館長心得)	明治34年1月 ～ 明治34年2月
三宅 五郎三郎	明治34年4月 ～ 明治37年3月
湯浅 吉郎	明治37年3月 ～ 大正5年5月
北島 貞顕	大正5年10月 ～ 昭和15年11月
内藤 乾吉	昭和15年11月 ～ 昭和22年7月
西村 精一	昭和22年7月 ～ 昭和38年10月
相馬 利雄	昭和38年10月 ～ 昭和45年8月
岩崎 彰之助	昭和45年8月 ～ 昭和47年4月
吉川 博明	昭和47年4月 ～ 昭和48年6月
庄林 二三雄	昭和48年6月 ～ 昭和49年4月
宮本 英男	昭和49年4月 ～ 昭和50年3月
布村 忠雄	昭和50年4月 ～ 昭和55年4月
長谷川 啓司	昭和55年4月 ～ 昭和56年4月
浜辺 一彦	昭和56年4月 ～ 平成元年7月
上田 将 (本庁指導部長兼任)	平成元年7月 ～ 平成元年9月
林 芳男	平成元年9月 ～ 平成4年4月
柴田 實	平成4年4月 ～ 平成6年5月
高木 多喜男	平成6年6月 ～ 平成8年3月
五十嵐 一郎	平成8年4月 ～ 平成10年3月
西山 隆史 (本庁指導部長兼任)	平成10年4月 ～ 平成10年5月
小山 雄一	平成10年6月 ～ 平成13年3月
中里 隆憲	平成13年4月 ～ 平成16年3月
津守 俊一	平成16年4月 ～ 平成19年3月
松田 定	平成19年4月 ～ 平成21年3月
勝間 喜一郎	平成21年4月 ～ 平成24年3月
宮野 文穂	平成24年4月 ～ 平成28年3月
丸川 修	平成28年4月 ～

京都府立図書館基本方針

(平成28年3月改定)

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

京都府立図書館は、この理念を踏まえ、変化の激しい社会において、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となるとともに、府内全域に均質な図書館サービスを提供することにより、府民に期待される存在となることを目指します。

I 府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

各公立図書館・学校図書館等の活動を支援しつつ、各館と協力することによって、府内の図書館サービスを充実させます。また、府民に的確に情報を提供するため、各公立図書館・学校図書館等と大学図書館等をつなぎ、府内の各種図書館のハブとしての機能を果たします。

II 多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

府立図書館の役割に応じた選書を行いつつ、多様な文化資源に関する情報を取り扱います。また、様々な情報を求める人々が利用しやすい図書館サービスを提供し、高度な知的要求に応えます。さらに100年を超える府立図書館の歴史と文化施設が集中する岡崎という立地を最大限に活かします。

III 議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

多様な議論を展開しながら新たな情報を創造していく場を設定し、提供することにより、各機関・団体と連携し、様々な課題の解決につながる調査研究を支援します。あわせて、その成果を発信する拠点となり、こうした活動が各地で展開されるよう働きかけます。これらを通じて、京都の文化の創造と府内各地域の活性化に寄与します。

京都府立図書館資料収集方針

(平成28年3月改正)

京都府立図書館は、創設以来百年を超える収集資料を継承し、府内の中核的図書館として、現在及び将来の利用者のために、多様かつ的確な情報により資料を選定し、収集し、保存する。

1 基本的な考え

- (1) 府民の調査研究の拠点及び生涯学習を支援する図書館としてふさわしい資料を収集する。
- (2) 府内図書館ネットワークのセンターとして、市町村立図書館及び学校図書館振興のための資料を収集する。
- (3) 京都府立総合資料館をはじめとする文化施設との連携を考慮し、資料を収集する。
- (4) 多様な意見のある事柄については、幅広い観点から資料を収集する。

2 収集する資料

- (1) 収集する資料の種類は、図書、逐次刊行物、映像・音響・電子資料、障害者向け資料等とする。
- (2) 収集部数は原則として1部とする。
- (3) 収集した資料は、原則として永年保存とする。

3 収集方法

購入、寄贈等により収集する。

4 資料収集の協議

重要事項については、収集委員会により協議する。

5 資料選定の具体的基準

収集する資料の選定については、別に定める資料収集基準による。

京都府立図書館 サービス計画を策定しました！

京都府立図書館では、「京都府立図書館サービス計画（平成 28 年度～平成 32 年度）」を策定しましたので、お知らせします。

この計画は、広く府民を対象としたアンケート(※)を実施し、あわせて外部有識者で構成する検討会議でいただいた御意見を反映して策定したものです。

京都府立図書館は「図書館」の新たな可能性を切り拓きます

図書館は、人々が知的で創造的な人生をおくるため、人類の知的遺産である出版物を中心とした文化資源を適切に収集・保存し、活用・発信する場です。

この理念を踏まえ、京都府立図書館は、従来からの市町村支援機能と調査研究支援機能を十分に発揮しつつ、府立図書館が持つ資源を最大限活用して、新たな課題に直面する府民の知的活動の拠点となります。

現在、図書館をはじめ、文化・教育を取り巻く環境は、激しく変化しています。そのなかで、府立図書館が十分に存在感を発揮するためには、常に斬新なサービスに挑戦し、新たな価値を造り出す必要があると考え、府民に期待される存在となることを目指します。

サービス計画から ピックアップ！

◆ サービスデザインチームの設置

職員と図書館活動に関心のある外部の団体・個人によるサービスデザインチームを設置し、実験的なサービスや新しい事業に取り組みます。その成果を広く公開し、波及させることで、新事業の芽を作ります。

◆ 歴史ある図書館の演出と利用しやすい空間の構成

日本で最初の公立の図書館である「集書院」の伝統を引き継ぐ府立図書館の歴史を感じられる演出をするとともに、来館者が求める情報をスムーズに得られるよう案内します。

◆ 知的な交流の場の創設

多様な人々が互いに学び合い、対話・議論を行うことができる「知的な交流の場」を設置し、京都で活動する様々な個人や団体をつなぎ、課題を解決する拠点となります。

◆ 行政支援サービスの推進による府民への貢献

行政機関が課題解決に向けた施策を企画立案するためには、的確で幅広い情報を入手することが必要です。このため、府立図書館が行政支援サービスを行うことを通じて、府民への新たな貢献を目指します。

※府立図書館に関する府民アンケート調査

調査期間：平成 27 年 7～8 月

調査対象：住民基本台帳からの無作為抽出による郵送方式（4,000 名対象→有効回答 1,814 名）

図書館ホームページ上での WEB 方式（回答 680 名）

「京都府立図書館サービス計画(平成 28 年度～平成 32 年度)」

概 要

背景

かつて認識されていた「図書館像」は、貸出サービス中心のものです。現在、府立図書館はじめ各図書館は、社会の要請や利用者の求めに応じて、地域の実情に即した新しい形のサービス運営に努めています。

さらに、ICTの発展による情報の形態の多様化と、書籍をめぐる状況の激変のなかで、府立図書館も新たな役割を模索しています。

基本方針Ⅰ

府内全域の図書館をつなぎ、支援するとともに、協力して図書館サービスを展開します

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1 府内の各図書館とのネットワークの強化 | 3 学校支援の充実 |
| 2 市町村立図書館等への支援 | 4 子ども読書活動の支援 |

基本方針Ⅱ

多様な文化資源の情報を取り扱い、歴史と立地を活かしながら、幅広い調査研究のニーズに応えます

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 5 多様な資料の収集・整理・提供 | 11 非来館サービスの充実 |
| 6 十分な収蔵空間の確保による資料の的確な保存 | 12 障害者サービス等の拡充 |
| 7 資料館・博物館・大学等と連携した文化資源の情報発信 | 13 「歴史ある府立図書館」の演出 |
| 8 電子図書館サービス・デジタルアーカイブなどへの展開 | 14 入りやすく利用しやすい空間の構成 |
| 9 所蔵資料紹介・レファレンス業務の充実 | 15 職員の育成 |
| 10 来館者への貸出サービス等の充実 | |

従来の機能を核に

基本方針Ⅲ

議論し発信する場を提供し、課題を解決する拠点となることにより、文化の創造と地域の活性化に寄与します

新たな
挑戦

- | |
|----------------------------|
| 16 「知的な交流の場」の創設 |
| 17 府立図書館の見える化の推進 |
| 18 各種講座の実施と情報発信 |
| 19 行政支援サービスの推進による府民への貢献 |
| 20 サービスデザインチームによる新たな取組への挑戦 |

※ 3つの基本方針/20の項目/64の具体策 により、斬新なサービスを開発・提供

事業概要（平成27年度のまとめ）

平成28年8月発行

発行者 京都府立図書館

〒606-8343 京都市左京区岡崎成勝寺町9番地

TEL (075) 762-4655 (代)

FAX (075) 762-4653

URL <http://www.library.pref.kyoto.jp/>

